

少年の主張 意見発表者とその意見要旨（2009年11月21日）



泉小学校6年 鎗木 珠美 さん 「私は私らしく生きたい」

人の目を気にしすぎる自分 多数決のときも、多数のほうに手を挙げてしまう。それではいけないという反省。

三芳野小学校5年 木村 紳太 さん 「大切な命」

捨て犬の処分所の残酷さ。 自分の体験。足を切断した高校生の話。命の大切さ。

坂戸小学校4年 福田 弥生 さん 「おもいっきり遊びたい」

姉が小学1年生の時に「公園がほしい」と書いた「市長への手紙」。「すぐにできますよ」という返事に喜んだが、公園はできなかった。

入西小学校6年 門倉 希 さん 「自分の味方」

最下位だった持久走大会。からかわれず、あたたかい応援が嬉しかったこと。人を励ます言葉を使いたい。

入西小学校6年 須永 初凧 さん 「命が教えてくれたこと」

ペットの死。親戚の死。死の悲しさ、そして 死の意味。

住吉中学校2年 榎 翔太 さん 「モラル」

母が、自宅に来た、高くて質の悪いリンゴの「押し売り」にだまされる。現代人の「心

の汚染」について

泉中学校1年 柳瀬 和也 さん 「夏—母と僕との心の変化」

老人介護施設での、母の職業を体験。人に感謝される嬉しさ。親子の理解の深まり。

泉中学校2年 有川 直希 さん 「祖母が教えてくれたこと」

家族で祖母を介護した体験。きれいごとでない家族介護。コミュニケーションの大切さ。

城山中学校3年 西岡 恵里 さん 「日本と貧しい国々」

貧しい国々の人のことを忘れない。しかし、テレビ、携帯はなくても、家族と一緒に食事をし、助け合い、支えあう。心は日本のほうが貧しいのでは・・・。

千代田中学校3年 田中 光輝 さん 「言葉に思うこと」

オバマの演説。言葉の持つ力。その素晴らしさ、おそろしさ。

坂戸西高校3年 桜井 正子 さん 「日本と真実」

消費税増税に反対なのは、使われ方が心配だから。消えた年金、官僚天下り。納税率は、国民がその国を信用しているかどうかのバロメーター。

山村国際高校2年 大木 優美 さん 「恥を知る」

電車の、優先席で平気で携帯電話を使うおばさん。周りが注意しないことも問題。

山村国際高校3年 目黒 祐太 さん 「人の気持ちのあり方」

中学時代、「不良」だった自分が剣道で更生。その体験。

筑波大附属坂戸高校3年 石場 ゆり さん 「音楽を通じて」

オーケストラに入って異年齢の人たちと交流。海外での交流も体験。

筑波大附属坂戸高校3年 佐々木 駿 さん 「親に」

両親への、服従→反抗→和解。きっかけは、父に言われ、母の成育歴を思いやったこと。

<補足>

市長あいさつをはじめ、全体の雰囲気の中に「青少年を健全育成する」ための行事であるというニュアンスが強く、ちょっと違うのではないかと思いました。もっと謙虚になるべきである。

「子どもの権利条約」の精神は、子どもを保護する対象としてだけでなく、一人の人間として尊重し、子どもの力も借りて、社会の再生をはかるというものです。

坂戸小の福田さん、坂戸西高校の桜井さんは、具体的に大人の社会のおかしさを指摘されていました。私たちには、具体的にこたえていく責任があると感じました。

そのほかに子どもたちの、悩みや心配、怒りも、するどく、大人社会の矛盾、問題点をあぶりだしていると感じました。

学ぶべきは、私たちではないでしょうか。